

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2012 年 1 月 14 日

派遣者氏名（専門分野）	■■■■■	（ 東洋史 ）
-------------	-------	---------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	ユーラシア史的視点に基づく唐代仏教史の研究—石刻史料の調査・分析を通じて—
-------	---------------------------------------

**派遣期間**

2011 年 7 月 23 日 ～2011 年 9 月 20 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	中国	北京	国家図書館、北京大学	
	中国	西安	陝西師範大学、西市博物館、陝西歴史博物館、西安博物院、碑林博物館、昭陵博物館、乾陵博物館	陝西師範大学 李令福教授

**派遣先で実施した研究内容**

唐代における仏教をめぐる諸事象は、ユーラシア全体の動向と、唐王朝の政権構造とをふまえ、総合的に見直していく必要がある。そこで、報告者は、唐代仏教の中心地である長安に焦点を当て、長安仏教界の実態及びそれを支えた政治権力の特徴を明らかにするために、唐代の編纂史料に加え、近年発見の相次ぐ墓誌などの石刻資料を用い、どういった地域の人々が、いかなる状況のもとに長安に結集するのかを特定していく基礎作業を続けている。このような関心及び研究の土台に立ち、北京・西安では以下のような研究・調査を行った。

○7月23日～7月31日 北京滞在

国家図書館で、日本では入手困難な雑誌論文の検索とコピーを行った。また、西安での調査準備のために墓誌の所在や遺跡関連の資料を調査した。

北京大学歴史学系中国古代史研究中心の榮新江教授を訪問し、現在の長安関係の資料状況に関して意見交換を行った。特に、近年建設されたばかりの西安の西市博物館に所蔵されている墓誌についての状況をうかがった。同博物館には膨大な数の墓誌が所蔵されているものの、その具体的な内容は不明であった。榮氏より、現在、北京大学の教員が中心となって同博物館が所蔵する墓誌の目録を作成中であるとの情報を得た。現在の作業状況などを紹介してもらい、短時間ではあったが、おおよその状況をつかむことができた。

○8月1日～9月20日 西安滞在

西安では、国際学会での研究報告と、資料調査を行った。

①国際学会での報告：8月10日から13日まで西安市で開かれた国際学会「漢唐長安與東方文明国際學術研討会」に参加し、「不空在長安仏教界的興起與粟特人的影響」と題する報告を行い、長安研究の専門家との意見交換を行った。最終日はエクスカージョンとして、漢長安城及び唐長安城大明宮跡を調査した。都市史

を専門とする陝西師範大学李令福教授によるレクチャーを通じ、長安城の構造をより詳細に学ぶことができた。

②資料調査：主に、墓誌、墓碑、経幢等石刻の調査を、碑林博物館・西市博物館・西安博物院・陝西歴史博物館・昭陵博物館・乾陵博物館で実施した。展示中の墓誌については時間をかけて刻文のチェックを行うことができた。ただし、調査を希望していた石刻史料のうち一部分は一般公開していないものもあったため、博物館や研究所側の事情(整理中につき倉庫から取り出すことが難しい、または探し出すことが難しい)により、原石に当たることは難しかった。一部は原石の代わりに研究所が提供してくれた拓本を用い、文字のチェックを行った。

また、陝西省考古研究院を訪問し、墓誌をはじめとする石刻資料の整理状況をうかがった。当研究院では長安仏教界ともかかわる発掘したばかりの墓誌(未発表)の拓本を特別に見せていただいた。報告者が資料として使用するには、正式な発表を待つしかないが、内容を事前に知り得たことは大きな収穫であった。

西安以外：長安の仏教界と密接な関係を有する法門寺や五臺山・太原(山西博物院・山西芸術博物館)での調査を実施した。まず、唐朝の王権と密接に関わる仏舎利信仰の展開を探るために、法門寺博物館所蔵の石刻資料の調査を行った。また、仏舎利信仰と重なる形で唐朝によって積極的に推進された五臺山文殊信仰にかかわる寺院などの調査を行い、両信仰を推進した勢力の実態と、その推進目的を整理していった。

西安滞在最後の二週間は、以上の調査と並行して、調査から得られた情報と、これまで報告者が行ってきたデータとを照合し、整理を進めた。

## 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

本調査における目的は、唐代仏教の中心地である長安に焦点を当て、長安仏教界の実態及びそれを支えた政治権力の特徴を明らかにすることであった。そこで、西安の各研究機関に所蔵される唐代の墓碑・墓誌・経幢等の石刻資料の調査を行い、どういった地域の人々が、いかなる状況のもとに長安に結集するのかを特定していく基礎作業を実施した。予定していた原石を用いての調査は、展示されているものを除くと、ほとんどかなわなかったものの、これまで報告者が作成してきた唐代の外国出身の僧侶および仏教関係者のリストを十分に補完することができた。さらに、そのデータをもとに彼らの出身地の特徴と、当時のユーラシア情勢や唐内地の動向とを照合させることで、どの時期に、どの地域の僧侶がどういった背景のもとで来唐し、長安仏教界に進出していくのか、いかなる集団・政治権力と結びついていくのかが少しずつ明らかになってきた。なお、この作業については、さらなる時間を要するため、本調査での成果に加え、今後も引き続き同様の作業を行う予定である。

## 派遣後の研究発表の予定

- ①2011年12月2日 関西大学東西学術研究所にて、これまでの研究内容に加え、一部、中国調査での成果を盛り込んだ研究発表を行う。
- ②2012年4月27～28日 韓国ソウルで開かれる国際学会(アジア世界史学会 AAWH)において発表予定。
- ③2012年7月上旬 中国北京で開かれる国際学会「中古中国的信仰與社會學術研討會」(北京大学『唐研究』編集部と首都師範大学共催)にて発表予定。